

# 第76回コンクール課題 (テーマ=むし)

幼 年 (えんぴつ)

か	と	ち	せ
ぶ	ん	よ	み
と	ぼ	う	
む			
し			

小 三 年 (えんぴつ)

野	た	な	追	ち
原	く	の	っ	よ
に	さ	花	て	う
着	ん	が	走	ち
い	さ		っ	よ
た	い		た	を
	て		ら	
	る			

小 六 年 (ペン)

世	大	文	「	フ
界	変	学	こ	ア
中	優	作	ん	ー
で	れ	品	虫	ブ
読	て	と	記	ル
ま	い	し	」	の
れ	て	て	十	
て		も	卷	
い			は	
る				

小 一 年 (えんぴつ)

は	え	あ	カ
こ	さ	り	も
ん	を	さ	ち
で		ん	の
る		が	

小 四 年 (ペン)

銀	日	た	く	夕
色	に	く	も	立
に	照	さ	の	の
光	ら	ん	す	あ
る	さ	の	に	と
	れ	水	付	
	て	玉	いた	
		が	た	

中 一 年 楷 書 (ペン)

鋭	固	深	食	昆
い	い	い	べ	虫
あ	も	関	る	の
ご	の	係	物	口
が	を	が	の	の
必	か	あ	種	形
要	じ	る	類	は
だ	る		と	
	に			
	は			

小 二 年 (えんぴつ)

と	ぶ	み	野	お
ん	ん	つ	ば	池
で	ぶ	ば	ら	の
来	ん	ち	が	ま
た			さ	わ
			い	り
			て	に

小 五 年 (ペン)

準	今	選	せ	夏
備	か	ん	み	休
す	ら	だ	の	み
る	本	の	観	の
つ	を	で	察	研
も	読		を	究
り	ん			に
で	で			
す				

中 二・三 年 行 書 (ペン)

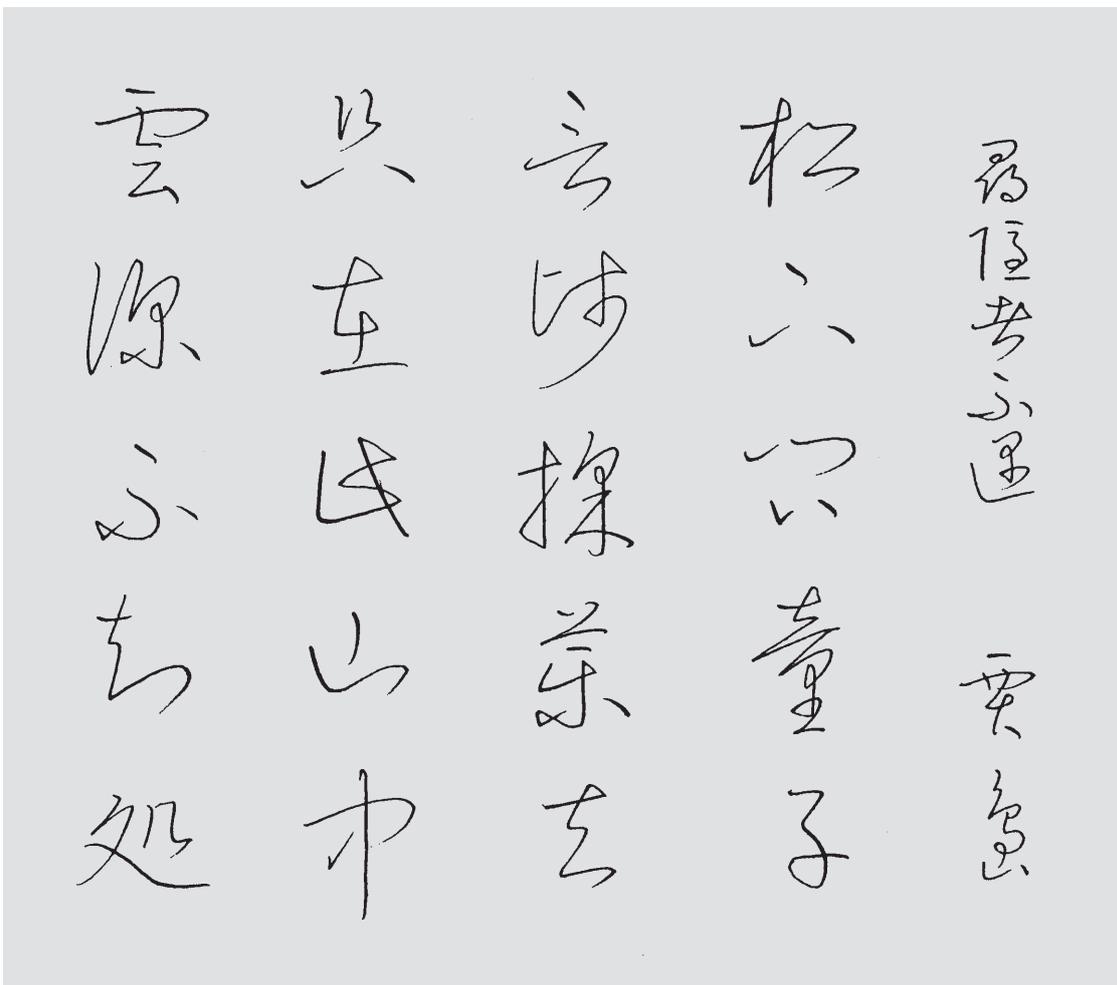
鋭	固	深	食	昆
い	い	い	べ	虫
あ	も	関	る	の
ご	の	係	物	口
が	を	が	の	の
必	か	あ	種	形
要	じ	る	類	は
だ	る		と	
	に			
	は			

※「ペン」は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

※幼年から小四までは上一段あけて書いて下さい。句読点は省略します。

漢詩を書く(2)

締切り 七月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

◎作品創りの第一歩として、漢詩を題材に小品を書いてみましょう。書体・構成は自由です。  
◎詩は先月と同じですが、草書で書いています。  
◎まずは、用紙に対してのバランス、行間・字間、行の中心などを整えて書くことが大切です。

隠者いんじやを尋あぬるに遇あわず 賈島かとう

松下童子に問う

言う師は薬を採り去ると

只此の山中に在らん

雲深くして処を知らず

ある日友の隠者(学識のある道士だが役人にならず山林に隠れ住んでいる人)を尋ねたが、あいにくるすであった。召使いの童子が老いた松の樹の下に居たから、師はどこへ行かれたのかと問えば、薬草を取りに行かれたと答える。賈島は思う、師は隠者であるから世間へは出られない。やはりこの山中に居られることであろう。あとを尋ねて行こうか。しかし何分にも雲が深くたれこめてとても会えそうもないと断念した。

◎作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

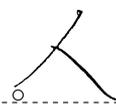
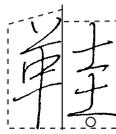
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

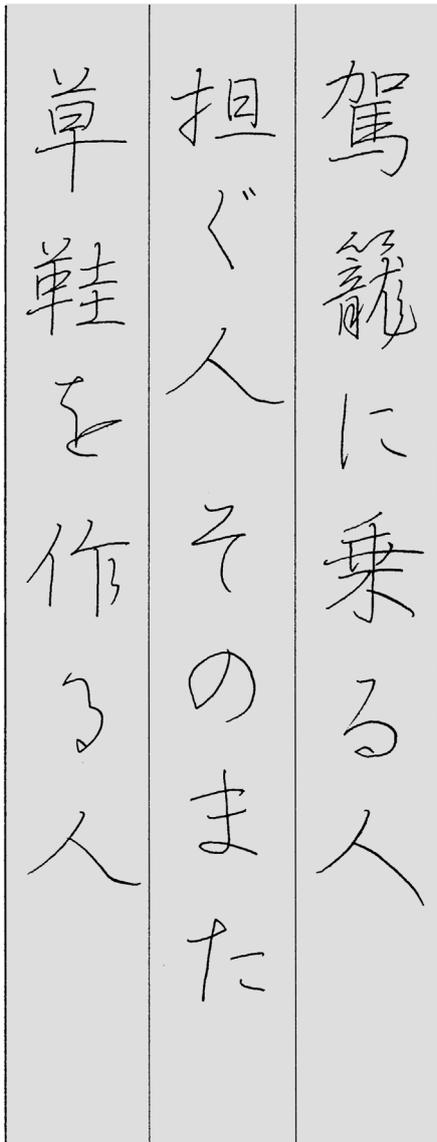
〔解説〕



自然と字形のふところがあふくらと広がった感じにする

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

人は三字あり  
少々変化  
するとよい

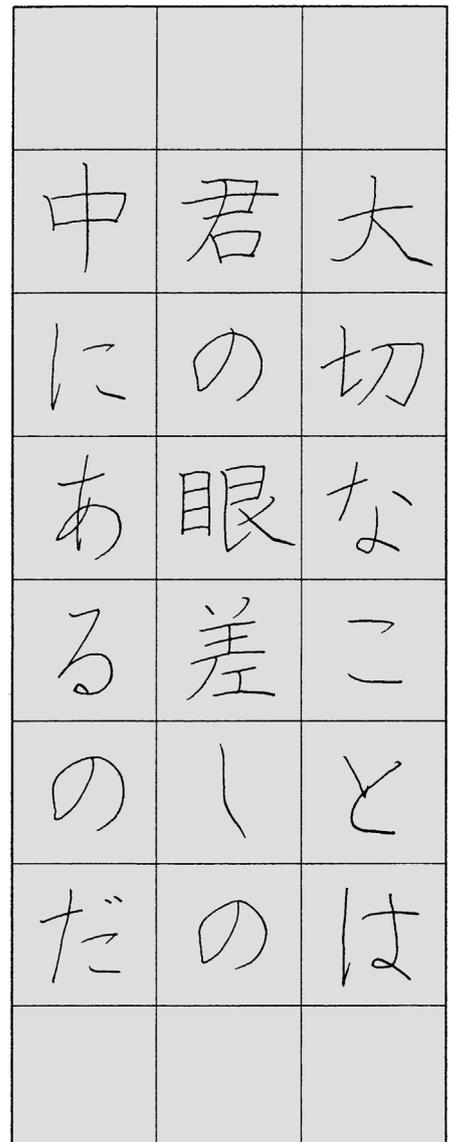
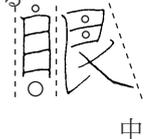
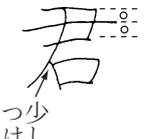


おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★大切：(書体⇨楷書)

アンドレ・ジイド (一八九〇〜一九五〇)

フランスの小説家・文芸批評家

課題文の後に「見られたものの中にはない」と続きます。

目にしてるものが何であろうと、それが重要なのではなくて、それを見ている人の心のありよう、何かを得ようとする、発見しようとする向上心が実は大切なのだといっています。

◆8月課題予告(行書)

尊敬がなければ  
真の恋愛は  
成立しない

★駕籠に：(書体⇨行書)

日本のことわざ  
「駕籠」は、時代劇でよく見るような、二人で担いで人を運ぶ乗り物です。世の中には、かごに乗る身分の人もいれば、そのかごを担ぐことを仕事にしている人もいます。さらには、その人たちがはく草鞋を作って生計を立てる人もいます。人はこうして社会的につながっていて、世の中は持ちつ持たれつであるということのたとえです。

◆8月課題予告(行草または草書)

父の恩は山より高く

母の徳は海より深し

童子教

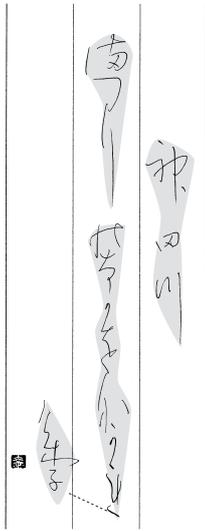
▼教範・書範⇨行書

▼師範⇨楷書

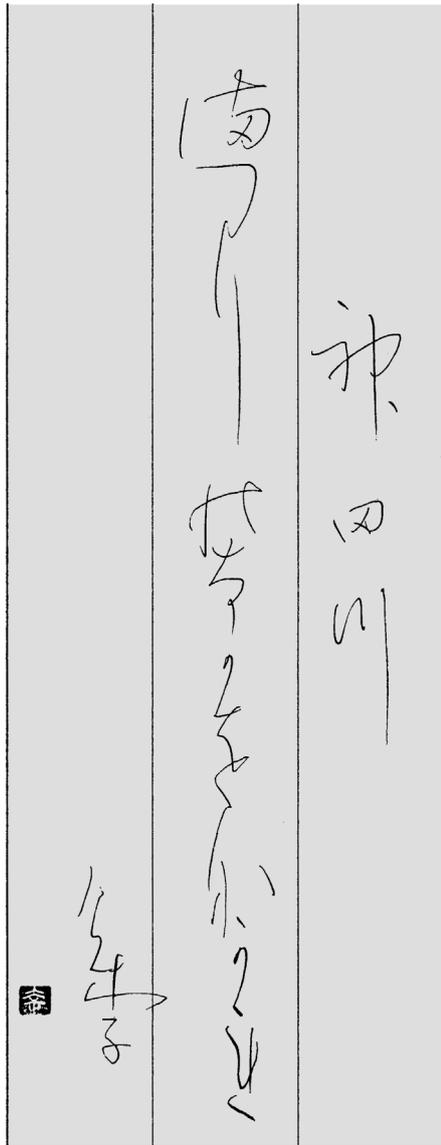
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



神田川祭まつり能奈可那可連介李の中を流れけり

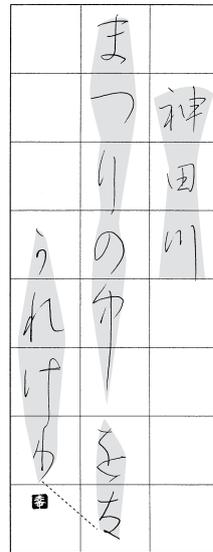


おさ 荻 田 蒼 せん 仙 書

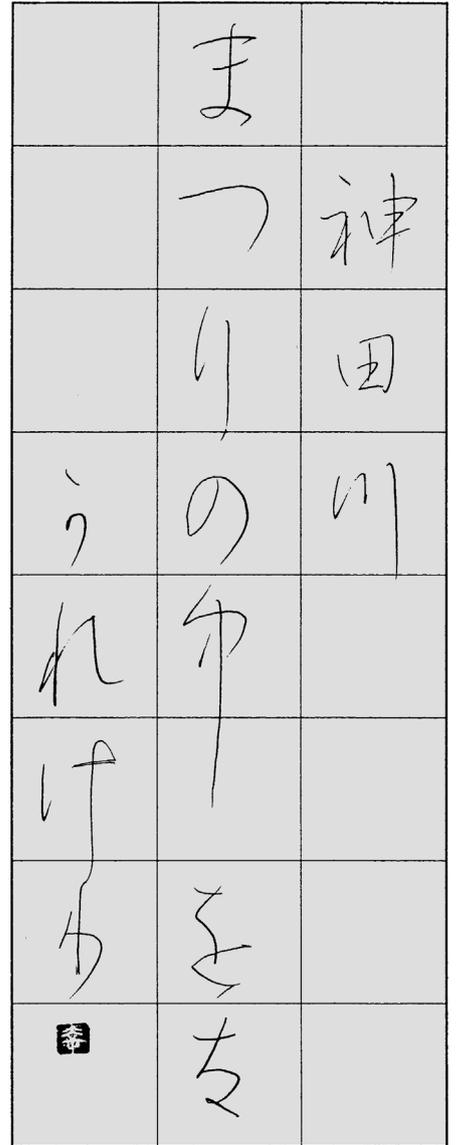
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



神田川祭まつり能奈可那可連介李の中を流れけり



おさ 荻 田 蒼 せん 仙 書

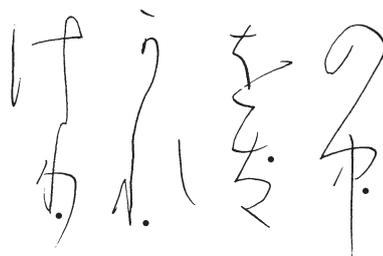
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆8月課題予告

をさなごのひとさしゆびにかかる虹 (草城)

〔段位ワン・ヒント〕  
意連によってスケール大きく動いている所、そして伸びやかさと、締めて重厚さを表現している点もご留意下さい。ペン圧の強弱もあれば一層かなの魅力が倍加されます。下部を小さくまとめることにより、上部の広がりを感じせしめた事もみて下さい。



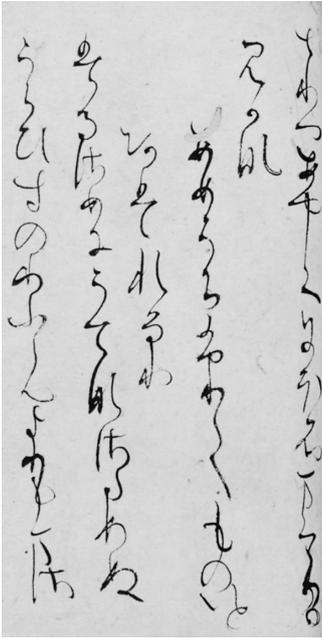
手本は連続になっていませんが、一字の終筆から次の●印まで一気に書き、一呼吸おいて次を書く練習をして下さい。

〔級位ワン・ヒント〕  
書道界では、かな作家と漢字作家と分かれていて、専門的に両方備えている人は稀です。実生活では完全に漢字かなまじりの調和体です。その意味で両方へ目を向ける事は大切です。規定手本執筆の岡田、大谷両先生は、名門、東京の小石会でも大物の実力者です。毎月の手本を心して学んで下さい。生活書もうまくなりますよ。

神田川祭まつり能奈可那可連介李の中を流れけり (久保田万太郎)

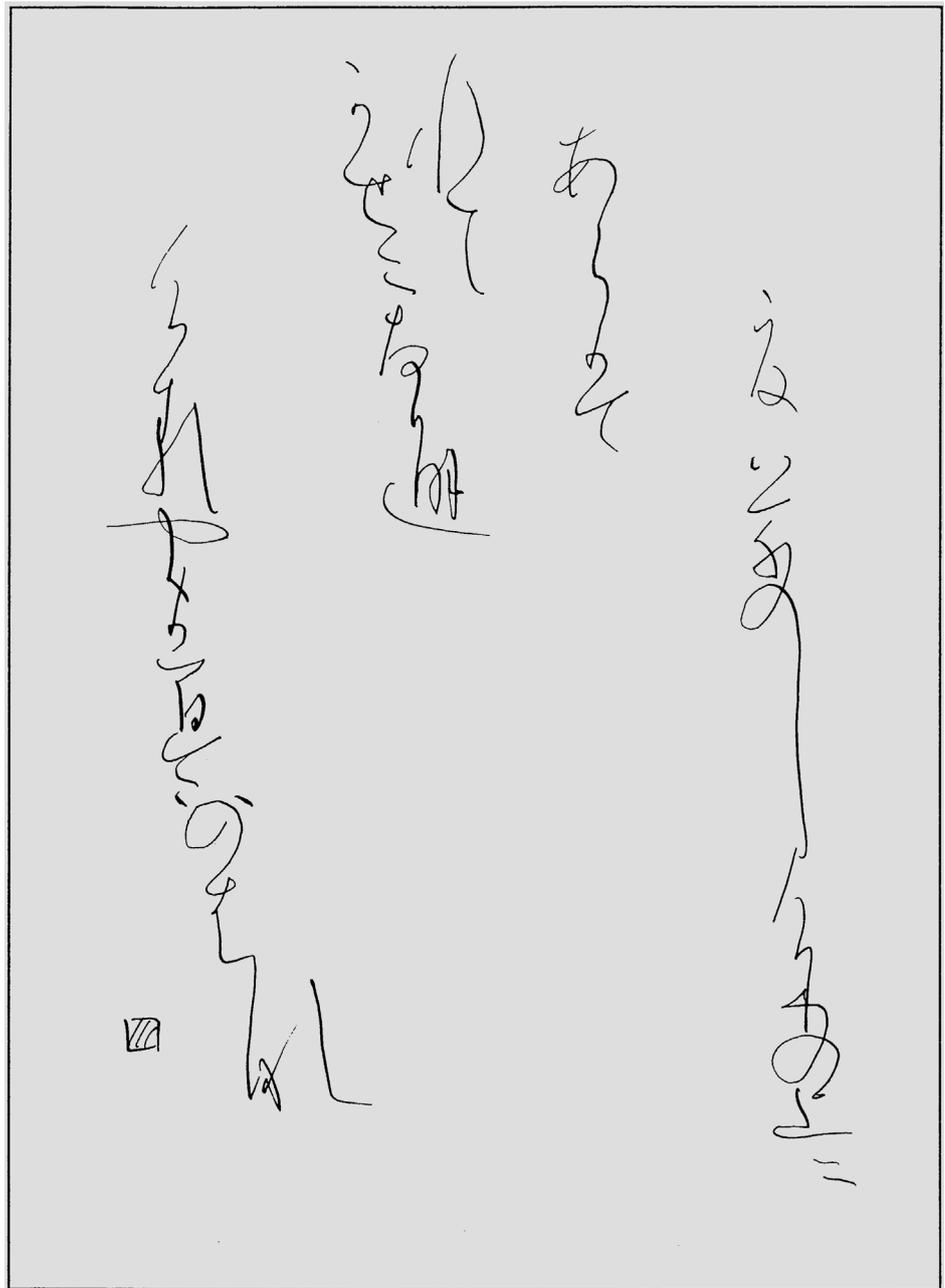
〔古筆参考〕

一条撰政集



ざりつあやしくにほふまくらが  
みか  
あめうちふりて、ものいと  
あはれなり  
はるさめにうてなざだめぬ  
うぐひすのわぶらむよりもまさ

締切り 七月二十五日(必着)



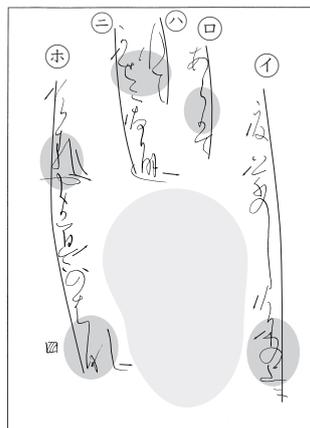
築瀬舟香書

夏草のしげりの上にはあらはれて風に  
なびける山百合の花

〔歌意〕 青々と茂った夏草の、その丈高い茂みの上に長く茎を伸ばして、白く大きな山百合の花がゆらゆらと風に揺れている。

〔出典〕 名歌即訳 若山牧水

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と③、②と④、③と④、③と⑤、④と⑤、それぞれ呼ぶ。
- 墨の動きに注意。
- 大きな間↓余白に注意。
- 方向に注意。

問

一条撰政集は卒意の書と云われています。静かに間を包む高野切などとは異なり、文字の内部の間が左右にゆれて行間へ働き出しています。いつも矢印で行間に向かう線、そして大きな間について説明していますが、このような技術も古筆から学ぶことが出来ます。

◆8月課題予告

紫に澄みぬる富士はみじか夜の  
暁起きに見るべかりけり

(若山牧水)

締切り 7月25日(必着)

自由課題

- ◆今月は、文章も自由といたします。
- ◆皆さんのアイデアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆バラエティに富んだ、個性豊かな暑中見舞い状をお待ちしています。

暑中お見舞い申し上げます  
 東海の軽井沢とも言われる当地。暑いとは申せ木立を縫ってくる風は又格別です。皆様で是非おいで下さい。お待ちしております。  
 平成二十一年盛夏

暑中お見舞い申し上げます  
 東海の軽井沢とも言われる当地。  
 暑いとは申せ木立を縫ってくる風は又格別です。皆様で是非おぞ下やい。お待ちしております。  
 平成二十一年盛夏

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横書き課題

家康の孫千姫は、豊臣家との和親のため7歳で豊臣秀頼に嫁した。

愛知県名古屋市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

※嫁する=嫁ぐ

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月25日 (必着)



準初段から師範まで

奥村暢之臨  
おくむら のぶゆき

【出典】孔子廟堂碑（626～633）【筆者】虞世南（558～638）  
【読み】 妙算は遺無し。（艱難を）弘済し、



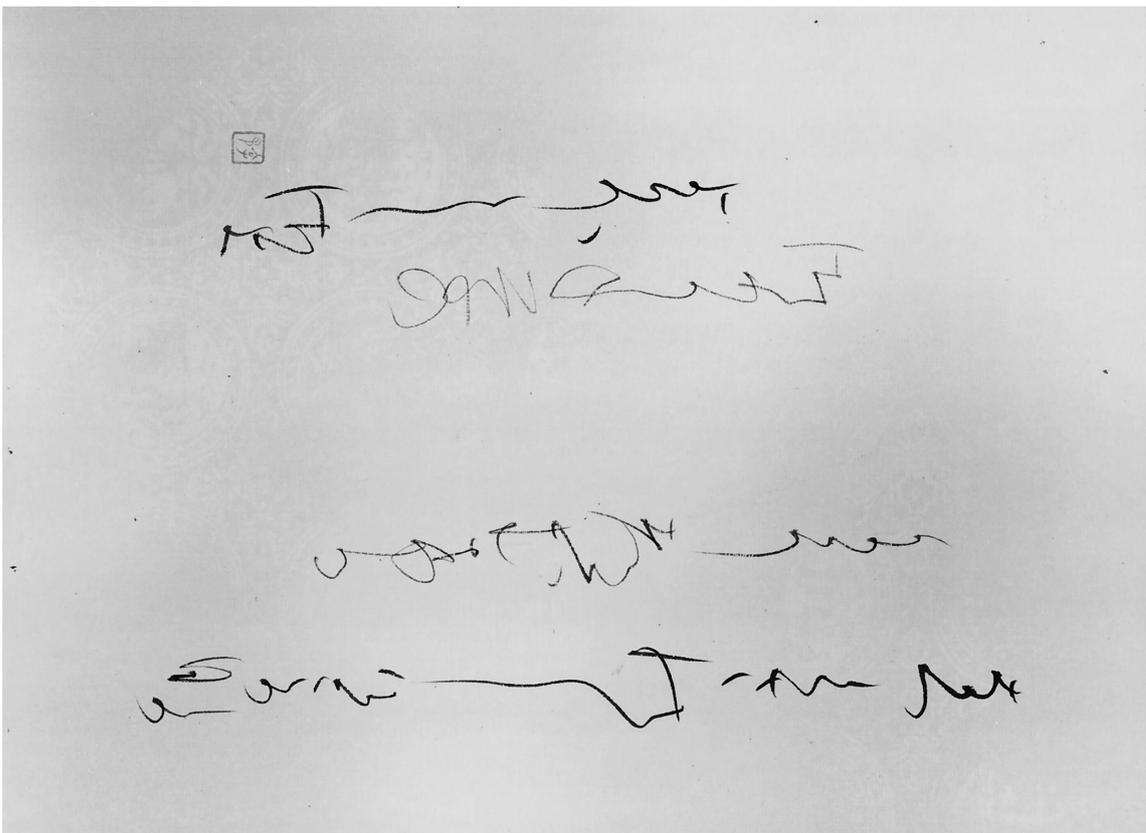
新入から1級まで（楷書）

澤静雨書  
さわしず

【読み】 夏雲奇峰多し。  
【大意】 夏の空の雲は種々なる形して奇峰を成すのである。

一般部毛筆かな課題

締切り 7月25日 (必着)

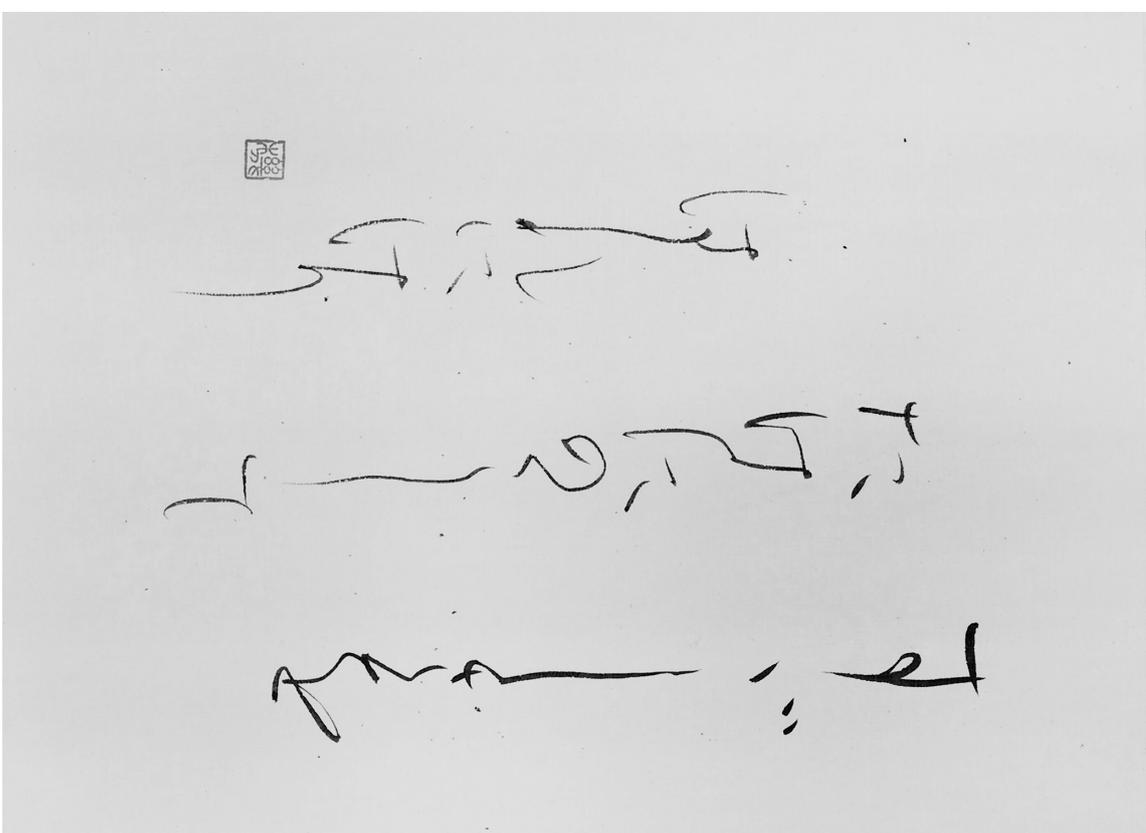


準初段から師範まで

夏草のしげみかな、なかにうつむける  
 能く三介可那可那  
 釣鐘草のよそよそしさよ  
 能利可那

〔出典〕 木下利玄

〔歌意〕 夏草の茂みの中にうつむいて映いている釣鐘草の、可憐ではあるが、心を寄せる私によそよそしいことよ。



新入から1級まで

浅井機山先生書

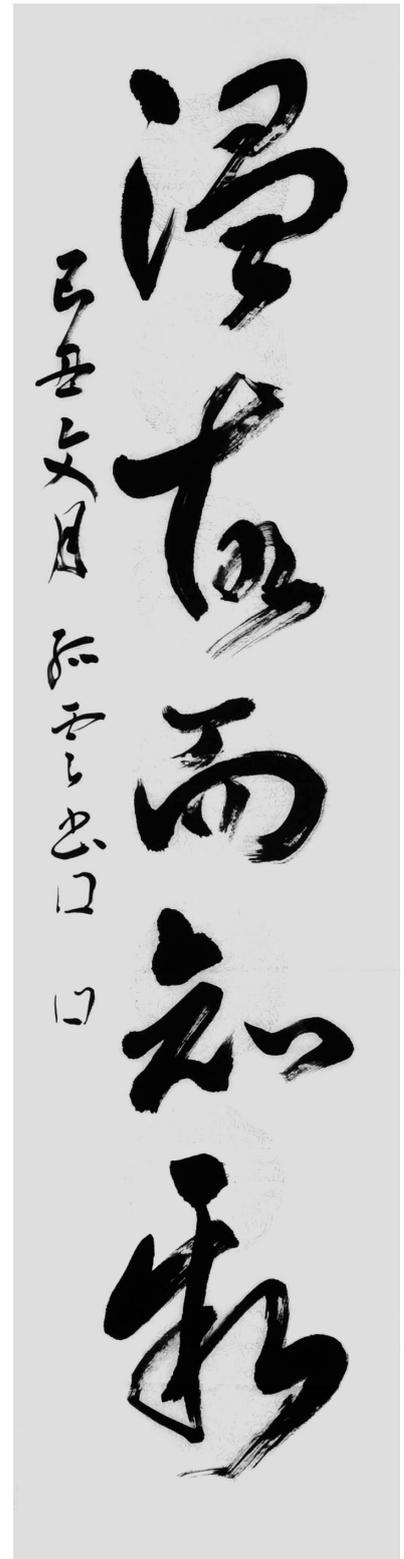
〔出典〕 中川乙由

〔句意〕 夕立一過のあと、藪の竹がみずみずしい青さを見せていて、涼味が感じられる。

一般部毛筆細字課題

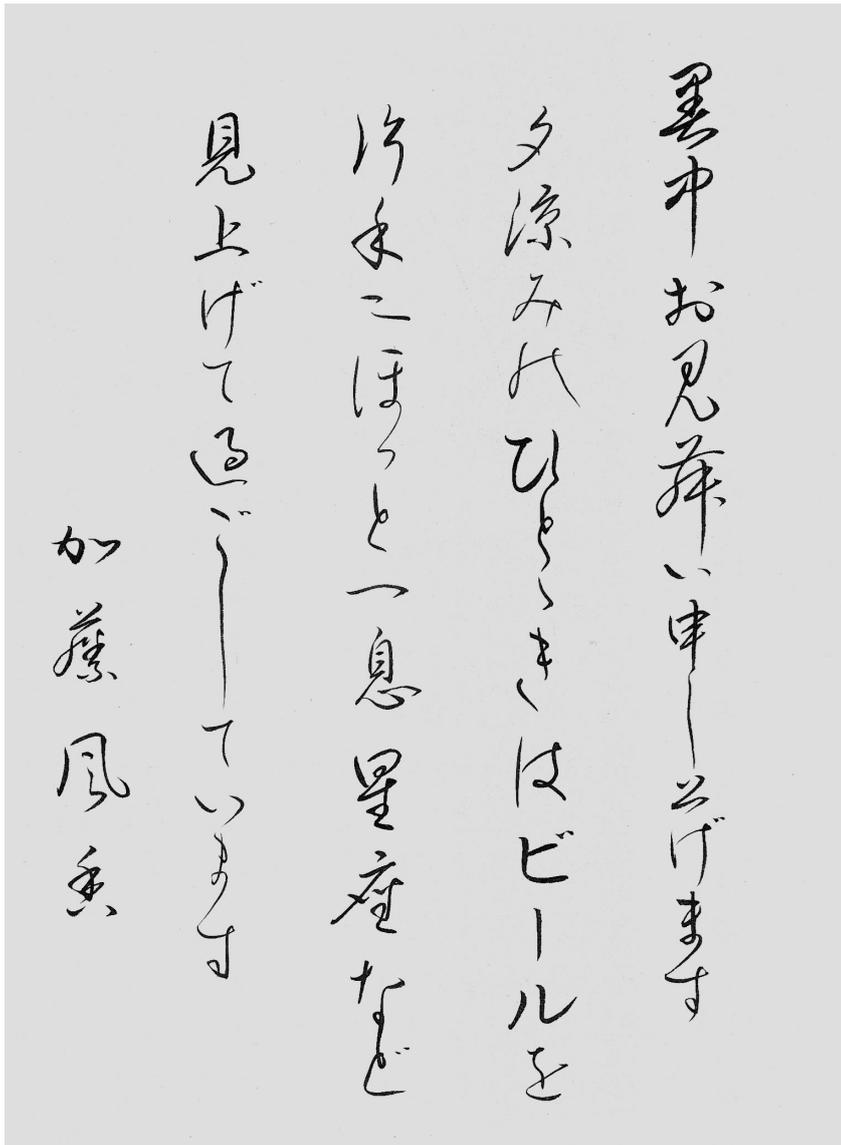
一般部毛筆条幅課題

締切り 七月二十五日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)



新井清泉書

温故而知新  
 (大意) ふるき物事を  
 たずね、新らしき知識  
 を求める。  
 (論語)  
 初出品の方へ  
 支部名・会員番号・  
 姓名・毛筆漢字成績  
 を、作品左下に必ず  
 お書き下さい。



半紙 (334mm×240mm)

おお みや しゅん ちよう 書  
 大 宮 春 兆

〔古典字例〕



〔条幅解説〕 今月は一行書きです。太目の筆で、潤  
 濁、大小、字間、余白等を考えながら書いてみましょ  
 う。落款もバランスよく収めましょう。

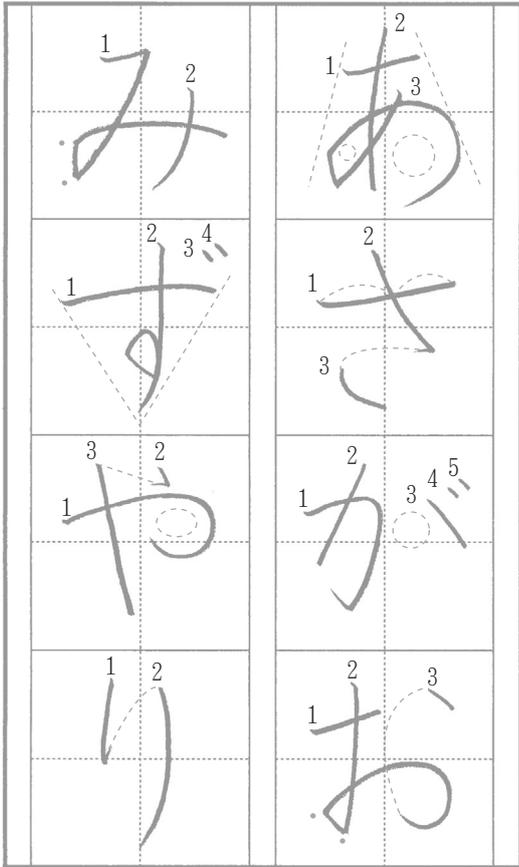
暑中お見舞い申し上げます  
 夕涼みのひとときはビールを  
 片手にほっと一息星座など  
 見上げて過ごしています  
 (ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐく〉自由(黒色にかきえる)



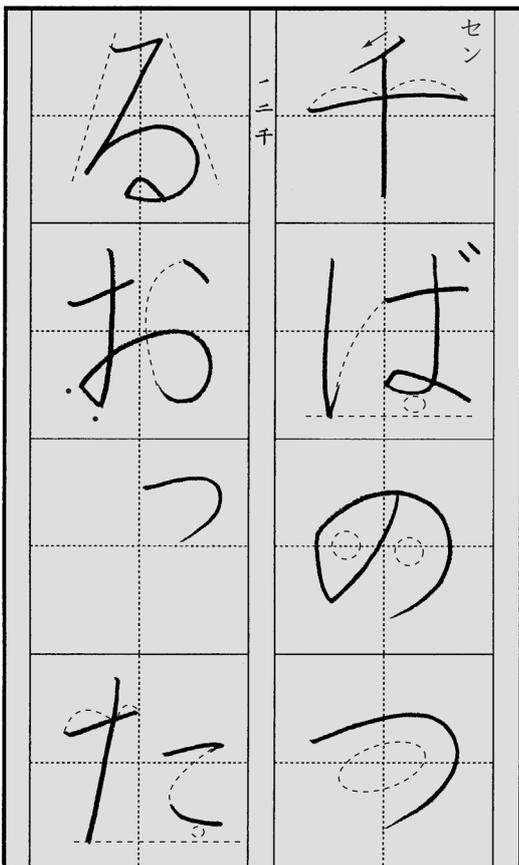
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



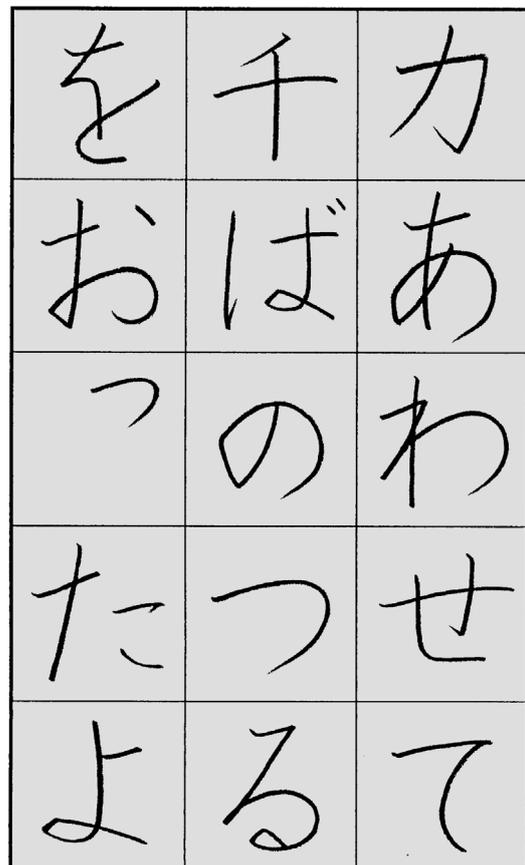
よ  
う  
年

小三年まで  
三宅容玉書



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小  
一  
年

準初段以上

〈ようぐく〉自由(黒色にかきえる)

か	一 工	工	コウ
う	イ 作	作	サク
小	こ	で	
石	いし	つ	

新入1級

で	う	工
あ	小	作
つ	石	で
め	を	つ
る	海	か

準初段以上

小二年

準初段以上

れ	一 長	長	なが
が	一 雨	雨	あめ
速	はや	で	
く	江 流	流	なが

新入1級

な	流	長
り	れ	雨
き	が	で
け	速	川
ん	く	の

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

し	新 <small>シン</small>
い	芽 <small>め</small>
茶 <small>チャ</small>	が
畑 <small>はたけ</small>	美 <small>うつく</small>

新入1級

美	新	観
し	芽	光
い	の	で
茶	緑	見
畑	が	た

小四年

準初段以上

小四以上 尾郷翠光書

図 <small>ズ</small>	目 <small>モク</small>
便 <small>ベン</small>	的 <small>テキ</small>
利 <small>リ</small>	地 <small>チ</small>
	略 <small>リヤク</small>

解説(よく見て習いましょう)

る	の	目
と	略	的
便	図	地
利	が	ま
だ	あ	で

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小六年

当	待	西
た	券	武
り	が	戦
届	二	の
く	枚	招

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

待	西
券	武
当	戦
届	招

タイ  
一丁門西西  
セイ  
一十千正武武  
ケン  
一十千正武武  
ブ  
一十千正武武  
セン  
一十千正武武  
シヨウ  
一十千正武武

待待待待待  
券券券券券  
当当当当当  
届届届届届

あ(たる)  
とど(く)

自由(黒色に限る)

中一年 (行書)

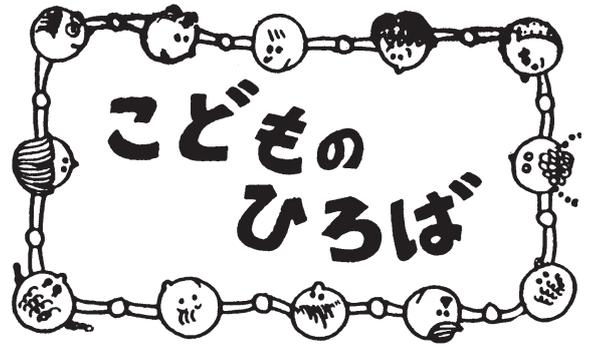
展	細	祖
示	工	母
さ	作	の
れ	品	粘
た	か	土

中二・三年 (行書)

絵	浦	保
本	島	育
を	太	実
読	郎	習
む	の	で

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

▼小三年以下の課題 ひし ぬま こう ほ 菱 沼 光 歩 書



しめきり 7月25日(必着)

大	か	夜	ク	ケ			
音	え	の	ワ	ロ			
楽	る	田	ツ	ケ			
祭	の	ん	ク	ロ			
		ぼ	ワ				
		て	ツ				

習っていない漢字は、  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 せき らい しょう 関 頼 翔 書

片	計	宿	夏	有			
付	画	題	休	意			
け	的	を	み	義			
ま	に	一	の	な			
す		つ	た				
		一	め				
		つ	に				

◎お手本はえんぴつ使用

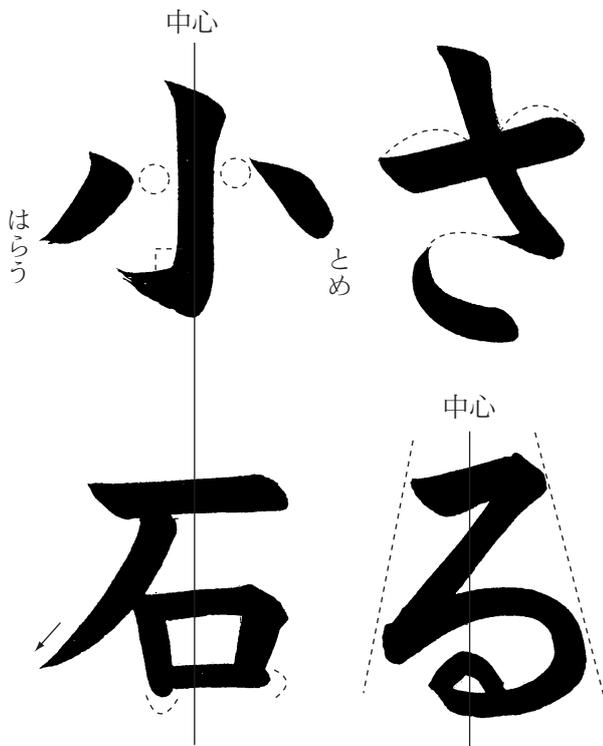


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、四行用紙に書く場合は、文章を収まりよく短くして下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五

便利

小三

長雨

中心  
 1 2 3 4  
 右やや広く  
 とめ  
 とめ  
 はらう

畑  
 便利  
 利

長  
 雨  
 茶

小四

茶畑

小三、小五年

水野の香竹書

中二三

浦島太郎

小六(中二・三年)

奥村暢之書

招待券

小六

展

浦

郎

招

券

作

続けて一筆で書く

βは下げる

中一 展示作品

※六月号中二・三課題予告の中で「朗」とあるのは誤りでした。お詫びし訂正します。